

◆小春日や笑顔で渡すやませみかな 郷の秋
◆青き山永遠に心のふるさとに 正月
◆よみがえれ輝く心子どもらの 冬いちこ
◆引っ越しでこけて転んで厄払い ころどり
◆人も町も一つに包む青い空 荳雲
◆もう一度山をかついで里づくり 太郎ぼっち
◆やまつつじ美しの山をまた歩こう 松竹梅
◆環境は近くにありて守るもの 晶子
◆天覧山多峯主山を語りつつ 秋桜
◆治療する目医者さん 中山一座
◆新年を動かす力雑草のまや 京歌
◆森林浴業いらすのお医者さん 天多望
◆落ち葉ふみ永遠に歩むは天多峯 かねススキ
◆山哀れ無きが如くに忘れられ 不動さん
◆年の瀬や頭も首も回らない 米子
◆タマゴタケ ヤマイモ アケビ て
◆テンランザン 寧子
◆楽健会忘年会には皆勤です
◆草や木やけものや虫と君と我

「カイアシシンフォニー」
上映会のご案内
地球の音がきこえますか
映画「地球交響曲・第三番」
二月一日(日) 飯能市民会館小ホール
・午前の部 開場十時 上映十時半
・午後の部 開場一時半 上映二時
・料 金 中学生以上九九九円
*保育あり(要予約一月二五日まで)
*小学生以下は入場ご遠慮ください
《連絡先》チケットのお求めはお早めに
小船 0429-7214602

「一日より日ふる里散歩」

◎一月一日(木) 午前六時 弁当不要
天覧山・多峯主山初歩きの巻
◎二月八日(日) 午前九時半
北風木枯らしアッカカンベの巻
冬枯れの林で冬鳥の姿を探そう
◎三月八日(日) 午前九時半
はる・春 みつけたの巻
トウキョウサンショウウオの卵が
観察出来るかも知れません
◆集合 能仁寺山門前 右記時間
◆参加費 保険料 百円
◆持ち物 お弁当・山歩きの服装
◆共催 埼玉県生態系保護協会 飯能名栗支部
◇はんのう景観トラスト

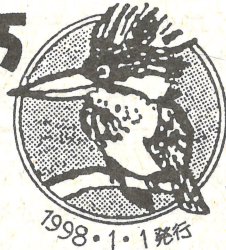
「Tシャツアート展」 in 天覧山・多峯主山

真っ白なTシャツに大好きなふるりの山への想いをこめて、あなたの好きなアートを描こう
参加費は一口百円、何口でもOK
(守る会から一口につき作品製作用Tシャツ一枚を差し上げます)
作品製作用Tシャツにイラスト、文字、染め物等でアートを仕上げて下さい。描く材料は水彩、油彩、マジック、クレヨン、墨、草木染め等自由です。
一人一人のメッセージがこめられたTシャツは天覧山・多峯主山そのものをミュージアム(美術館)と考え、野外展示する予定です。また、作品は今後の守る会の活動で利用させていただきます!と思います。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

「会費を募集しています」

天覧山・多峯主山周辺の自然を守りたいという目的に賛同して下さる方、どうか会員になって活動を支援して下さい。会員の申込み用紙、会報「やませみ」市長への手紙の用紙などは、事務局や左記に置いてあります。
☆谷口眼科 ☆銀河堂 ☆カフェ・裏

No.15



1998・1・1発行

天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

かけ足でけけか?
のんびりでけか?
1997年...。そして
はじまった1998年虎年。

山を守ることは
たとえ萬里の道のり
だろうと、トラハ
バンリヲユク
のです。

もういまた
萬里の道と
つながりあって
もっと
力をつけたいわたちです。

さあ今年も、山からの便りや山を想うひとびとの
言葉、山歩きのおさげや山が自然から
見えてくるわたしたちの暮らしそのものについてのあれこれ
この『やませみ』の上でい伝えあいたい... と思う
のです。この一年、また天覧山・多峯主山ととりに
あることを祈って... かオーッ!!

やませみ

発行日 / 1998年1月1日 編集・発行 / 天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局 / 浅野正敏 埼玉県飯能市柳町18-17 ☎0429-74-1691 小船明子 ☎0429-72-4602
編集局 / 早瀬あかね ☎0429-77-1890 (FAX兼) イラスト・レイアウト / 石岡真由海

「継続は力なり」の 市民運動

天覧山・多峯主山の自然を守る会
代表 浅野正敏

飯能のシボル地、天覧山・多峯主山周辺を開発の手から守ろうと立ち上がってから、丸3年になろうとしています。95年11月に行った直接請求運動は、飯能市においてかつて無い市民運動であり、余りにも衝撃的な行動であったため、多くの人々の知るところとなりました。一方、この直接請求が議会で否決された事で、保全運動はこれ以上続けても意味が無いと思っ

ている人もいます。このマイナスの発想の人達へ、あえて伝えたいのです。市民による保全条例制定のために行った直接請求は、あくまでも一つの手段でした。一つの方法が拒否されただけであって、天覧山・多峯主山周辺の森の保全は、飯能市にとって誰もが大切であると思っ

ている事、運動を継続していく事が必要なのです。直接請求以後、96年に守護神のごとく現れたオオタカによって事態は一変しました。その年の夏には、環境庁からオオタカ保護に対するガ



イドラインが示され、開発事業は完全に一時ストップしたのです。これに伴い、県を仲介として開発企業である西武鉄道、開発を進める飯能市、当会を含む自然保護団体との間でオオタカ保護に関する関係者会議が持たれ、テーブルの上で開発と保護の接点を探っています。又、97年度予算で県による天覧山・多峯主山周辺の、県民休養地計画再開に向けての環境調査も実施されています。今後、調査が進むにつれてその豊かな自然環境がクローズアップされていくと思います。しかし、だからと言って自然が残るものではありません。唯一、私達に出来る事は、多くの市民による力強い保全に向けての意志を示し続ける事、及びそれに対する責任を持ち続ける事です。

「継続は力なり」……バブル崩壊以後、住都公団の解体、大手金融・企業の消滅と、世の中の状況も刻々と変化していく中、山を削り団地やゴルフ場を造る時代ではなくなっているのか。

天覧山・多峯主山の自然を守る会 1997年の記録

- 1月1日 会報「やませみ」10号(特別号)を発行
- 2月8日 飯能市市議会議員及び次期立候補者への公開質問状提出
- 17日 県庁前にてアピール、会報「やませみ」配布。知事へ要望書提出
- 28日 県より平成9年度予算に天覧山・多峯主山周辺の県民休養地計画の為に調査費用計上の発表
- 飯能市市議会議員及び次期立候補者への公開質問状の回答を「やませみ」号外として発表
- 3月1日 会報「やませみ」11号発行
- 28日 オオタカ保護に関する関係者会議開催(第2回)
- 4月20日 総会と講演会
- 22日 西武鉄道によるオオタカ調査に、守る会側も参加(以後5月7日・21日、6月4日にも参加)
- 29日 5月3日・5日 天覧山・多峯主山利用状況アンケート調査実施
- 5月15日 県自然保護課へアピール。オオタカ保護に関する関係者会議継続開催の要望書提出
- 20日 会報「やませみ」12号発行
- 6月22日 毎日曜日早朝オオタカ・ハチクマの定点観察を、守る会として実施(8月末まで継続)
- 28日~7月5日 1週間連夜ホテル観察会と調査を実施(延約300人参加)
- 7月17日 飯能市市長選立候補者に公開質問状提出
- 19日 同、回答を「やませみ」号外として発表
- 8月17日 ハチクマ(タカ)の営巣が確認され朝日新聞の記事となる
- 19日 希少猛禽類(オオタカ・ハチクマ)保護対策に関する公開質問状を飯能市長に提出
- 21日 会報「やませみ」13号発行
- 9月5日 飯能市長より公開質問状に対する回答がなされる
- 前市議会議員との懇談会(第1回学習会)開催
- 10月2日 オオタカ保護に関する関係者会議開催についての公開質問状を知事に提出
- 3日 新人市議会議員との懇談会(第2回学習会)開催
- 13日 県より、関係者会議開催についての公開質問状への回答がなされる
- 11月1日 会報「やませみ」14号発行
- 7日 新人市議会議員との懇談会(第3回学習会)開催
- 18日 県庁前にてアピール、会報「やませみ」配布
- オオタカ保護に関する関係者会議開催(第3回)

この他、毎月第2日曜日には「ふるさと散歩」を実施しています。また定期的に会報「やませみ」の街頭及び市役所、県庁前での配布、市内各所でのポスティングを行っています。定例会は第2、第4金曜日の夜7時30分より、織物協同組合会館で開かれています。どんなでも参加大歓迎です。



この一年を振り返って..

ここ数年、私たちが野山を歩いて気付くのは、生き物の数が極端に減少していることです。そのスピードは年々加速する一方です。天覧山から多摩山にかけての山も、地域的に絶滅した種も出始めています。

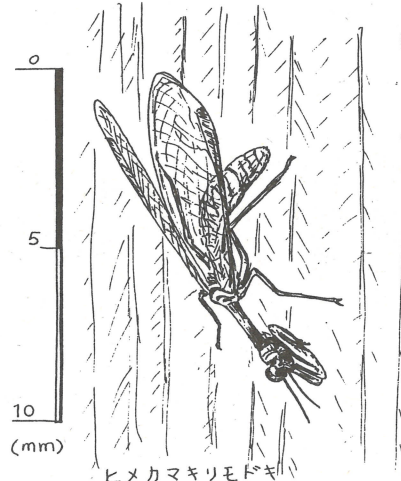
その原因として考えられることは、開発行為による生息地そのものの消失や、生き物への配慮に欠けた池や沢、排水路の護岸。生態系を分断する道路整備。排気ガス等による温室効果や気候の変動、酸性雨、農薬や化学物質などの生き物への体内濃縮等が複合的に影響しているものと思われます。

私たちの周辺から生物の種類数が減り生物の多様性が失われることは、私たちの生活基盤を軟弱にし、将来の選択肢をも狭める結果となります。

首都圏近郊に豊かな多様性を現在も残す天覧山・多摩山・多摩山・多摩山の自然の流れを振り返ると、良いニュースあり、悪いニュースありの一年でした。

良いニュースとしては、希少種のタカ・ハチクマの繁殖成功でしょう。ハチクマは、一昨年の2羽の巣立ちに続いて、今年も1羽が無事に巣立ちました。ハチクマの成長はとも早く、1羽だけだったことから、8月中旬にすでに巣立ちを迎えています。食性の多くを蜂の巣に依存するハチクマの生息は、地域のハチを中心とした昆虫類のもつ生態系の底辺の広がりや物語り、豊かな自然の証明ともいえます。その

証拠にゲンジボタルやヒメカマキリモドキ、チツゼミ、コガネグモ等のさいたまレッドデータブックで危急種にランクされる昆虫の生息や、ムカシヤンマ、オオムラサキ、ミヤマセセリ等の希少種も当地で多数生息が確認されています。また、今年も全国版レッドリストに絶滅危惧Ⅱ類に指定されたシダ植物のミズニラや、ラン科のミズトランポ。絶滅危惧ⅠB類のアゼオトギリなど県内でも希少な植物も確認されました。



ヒメカマキリモドキ

次に悪いニュースとしては、今年もオオタカが繁殖に失敗してしまっただけです。

失敗の原因はいくつか考えられますが、昨年の秋、住宅開発を計画する西武鉄道がオオタカの持つトリートリー林内に六カ所も人口巣を設置し、自然環境の改変を行ったことも原因の一つと考えられます。特にオオタカが巣材を運んだ人工巣の近くは、登山者の往来が多い場所でもありました。また、オオタカは4月23日を境に、

抱卵期にもかかわらず巣を明けることが目立つようになり、昨年壊された古巣付近をベアで巡回する行動なども目撃されています。おそらく抱卵の初期であったことから、何らかの圧迫が原因で今の巣に危険を感じ、営巣場所の変更と産卵のし直しを考えていたのかもしれない。

オオタカ以外にも残念なニュースがありました。多摩山の山頂近くの雨乞いの池では、希少種のニホンメダカとトウキョウサンショウウオが配慮の無い池の護岸によってメダカは絶滅し、トウキョウサンショウウオは2年連続で卵が孵化せず絶滅が心配されます。メダカの地域絶滅は池の改修による水質の変化と産卵場所となるヨシやガマ、オモダカなど挺水植物の排除が主な原因でしょう。池に沢山いたヌカエビ（絶滅危惧種）も同じ理由から現在見られなくなっています。

トウキョウサンショウウオは、池の中で多数産卵したものの、登山道からの泥水の流入と、植物を排除したために浄化作用がなくなり、汚れた水の中、卵は成長できず、孵化せずに腐ってしまいました。生き物への配慮を欠いた結果といえます。

生き物が年々減り続ける状況の中、今、私たちに求められているのは、自然と接する機会を増やし、自然から多くを学び、自然への理解を深めていくことです。そして私たちの生活基盤となる自然環境の大切さを知るためにも、身近な自然を残す必要があるのではないのでしょうか。

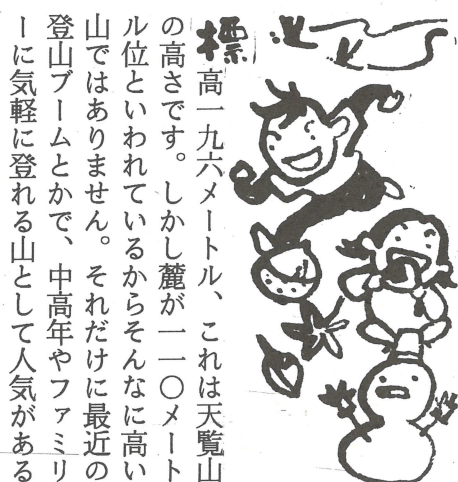
文・イラスト／市川和男
（財）日本生態系協会会員

心に山をもちながら まちに生きる

—飯能の商店街と天覧山・多摩山—

時々買い物したり、食事したり、山歩きのポスターを貼って
いっている中央通りや銀座通りのお店。今四軒の
お店をめぐって自然と天覧山・多摩山について、日頃と
は風を感じたり考えたりしているのか、書い下すよう
お願いしたら、皆さん「文章なんて書けなから…」と
おしりかざり引き受けてくださり、素晴らしい中々
んと原稿を用意して待っていてくださいました。編集部一同感謝。

現在の生活は、四季の移り変わりに
うとくなくなってしまっているようです。
私の家の前の一本の姫りんごの木が、
駐車場になるために切られました。こ
の木は春に白い花をつけて、夏は鳥の
棲み家に、秋に赤い実をもって、四季
を感じさせてくれましたのに残念です。
天覧山はもっと大きな自然の宝庫で
す。飯能の自慢の山をもっと大切にし
たいと思っています。お正月の初日の
出、お花見、紅葉狩り、いつでもフラッ
と出かけて行ける身近な、手軽な散歩
道です。皆さんも是非、天覧山・多摩
山へ自然を見つけない、運動不足の解消
に、出かけてみませんか。 本町Y



高一九六メートル、これは天覧山
の高さです。しかし麓が一〇メート
ル位といわれているからそんなに高い
山ではありません。それだけに最近の
登山ブームとかで、中高年やファミリ
ーに気軽に登れる山として人気がある

天覧山と言う言葉を聞いて最初に思
い出すのは、小学校の校歌です。
「天覧山に朝日が映えて、はつらつ飛
ぶよ小鳥の群れが…」
今小鳥達は、元気に飛び回っている
のでしょうか。この歌にもある様に、
天覧山は飯能のシンボルです。私達が
子供の頃は暗くなるまで外で遊んでい
ましたが、今の子供達は、テレビゲー
ムなどで過ごす時間が多様に思いま
す。雪が降ると天覧山の裏山に行き、
手作りスキーや雪合戦、秋になると団
栗の実を拾いに行ったり、自然の中で
多くの時間を過ごした様に思います。
今でも、頂上で食べたおにぎりの味
は忘れません。汗をかき頂上に登り、
飯能の街並を見下ろして、将来の夢に
胸ふくらませたあの頃、本当に懐かし
く思い出します。子供が幼稚園、小学
校の頃には、よく天覧山、グラウンドへ
と遊びに連れて行きました。桜の花の
咲いた時の賑わい、秋の紅葉と、本当
に四季色々の自然は素晴らしい物だと
思いました。この自然を、いつまでも
守ってほしいと思います。
そしてもう一度ゆつくりと、子供の
頃を思い出しながら、天覧山の自然を
楽しみたいと思います。 T・T

抱卵期にもかかわらず巣を明けること
が目立つようになり、昨年壊された古
巣付近をベアで巡回する行動なども目
撃されています。おそらく抱卵の初期
であったことから、何らかの圧迫が原
因で今の巣に危険を感じ、営巣場所の
変更と産卵のし直しを考えていたのか
もしれません。
オオタカ以外にも残念なニュースが
ありました。多摩山の山頂近くの雨
乞いの池では、希少種のニホンメダカ
とトウキョウサンショウウオが配慮の
無い池の護岸によってメダカは絶滅し
、トウキョウサンショウウオは2年連続
で卵が孵化せず絶滅が心配されます。
メダカの地域絶滅は池の改修による
水質の変化と産卵場所となるヨシやガ
マ、オモダカなど挺水植物の排除が主
な原因でしょう。池に沢山いたヌカエ
ビ（絶滅危惧種）も同じ理由から現在
見られなくなっています。
トウキョウサンショウウオは、池の
中で多数産卵したものの、登山道か
らの泥水の流入と、植物を排除したた
めに浄化作用がなくなり、汚れた水の
中、卵は成長できず、孵化せずに腐っ
てしまいました。生き物への配慮を欠
いた結果といえます。
生き物が年々減り続ける状況の中、
今、私たちに求められているのは、自
然と接する機会を増やし、自然から多
くを学び、自然への理解を深めていく
ことです。そして私たちの生活基盤と
なる自然環境の大切さを知るためにも
、身近な自然を残す必要があるのでは
ないのでしょうか。
文・イラスト／市川和男
（財）日本生態系協会会員

「スーパードライ」
「スーパードライ」には、年に数えるほどしか
行かない。だから、行った時には、臭
い洗剤やシャンプーの棚を除いてしっ
かり見学する。量と種類に圧倒される。
でも、買いたいようなものは、無い。
ひとつの商品の後ろには、いったい
どれほどの数の人の手や、エネルギー
がつかわれているのだろう。多くの手
を経てこそ成り立っている社会。避け
られない問題の解決を先送りしたまま
で、いつごろまで続くのだろうか。お
まけに活性化とか、経済波及とかで誘
致する開発や巨大イベント。
スーパードライに行けば、そこそこもの
が手に入る。だけど、どうも自分が主
体になれない気がする。新しい住宅が
でき、立派な公園が造られたとしても
、囲い込まれるだけ。
便利さに流されないように、スーパ
ーに行き、こんなことを考える。
☆やませみ編集部は読者の皆さまから
の投稿をお待ちしています。

自然と共生に生きる

循環型社会づくりのために
（財）玉川生態系保護協会
飯能名栗支部長 黒住浩次

循環型社会にむけての大切なポイン
トの一つに『循環する素材選び』があ
ります。日常生活の『衣』『食』『住』
に『遊』に使われる素材のすべてにおい
て、調達、利用、廃棄、のどの段階で
も環境への負荷が少ない素材を私達が
選択する事。これが今私達に求められ
ている重要な事なのです。当然『循環
する素材』を選ぶ為に不便が生じる事
もありますが、それを受け入れる発想
の転換が『ライフスタイルの見直し』
へとつながるのではないのでしょうか？

例えば私達の生活に欠かす事のでき
ない道路。今ではほとんどの道が舗装
されています。しかしアスファルトで
地表を覆う事が本当に必要なのでは
しょうか？ 舗装する事は水の循環の一
部を断ち切る事になります。最近では透
水性の舗装も見られるようになりまし
たが、アスファルトそのものが自然界
の中では循環する事が非常に難しい素
材なのです。これに代わる循環可能
な素材の開発が大切だと思います。

ここで発想の転換ができないでしょ
うか？ アスファルトを剥がしてみた
らどうでしょう。今、住宅地の袋小路
になっている道や公共施設の駐車場、
通学路など、自動車にゆつくりと走っ
てもらいたい場所のアスファルトを剥
がす事ができれば、水の循環を少しで
も回復する事につながります。もしも
、埃や水溜りが気になるのなら、木材の
産地の飯能市の場合は、ウッドチップ
を敷き詰めれば、車両の通行にも支障
がなく、雨の時には跳ね上がりませ
ん。気温の上昇に対する冷却効果も期
待できるでしょう。そして何よりもウ
ッドチップは自然の循環を阻害しない素
材なのです。もちろん車椅子の通行や、
視覚障害の方への配慮などバリアフリ
ーへの対応も大切でしょう。経済的な
問題や安全性、衛生面など検討する点
はたくさんあると思います。それでも
社会全体でこの様な『ライフスタイル
の見直し』が受け入れられたら、もっ
と豊かな、次の世代の子供達に誇れる
街づくりができるのではないでしょ
うか？

読者の声

「スーパードライ」
「スーパードライ」には、年に数えるほどしか
行かない。だから、行った時には、臭
い洗剤やシャンプーの棚を除いてしっ
かり見学する。量と種類に圧倒される。
でも、買いたいようなものは、無い。
ひとつの商品の後ろには、いったい
どれほどの数の人の手や、エネルギー
がつかわれているのだろう。多くの手
を経てこそ成り立っている社会。避け
られない問題の解決を先送りしたまま
で、いつごろまで続くのだろうか。お
まけに活性化とか、経済波及とかで誘
致する開発や巨大イベント。
スーパードライに行けば、そこそこもの
が手に入る。だけど、どうも自分が主
体になれない気がする。新しい住宅が
でき、立派な公園が造られたとしても
、囲い込まれるだけ。
便利さに流されないように、スーパ
ーに行き、こんなことを考える。
☆やませみ編集部は読者の皆さまから
の投稿をお待ちしています。